



ニュースター

21号

お茶の水聖書学院 同窓会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OOCビル

TEL 03-3296-1005 FAX 03-3296-4641

郵便振替 00180-4-711816 発行者 増田 書雄

巻頭言 「祈りを学ぶ」 ルカ11:1~4

OBI 副学院長 世良田湧侍

さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子のひとりが、イエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」

そこでイエスは、彼らに言われた。「祈るときには、こう言いなさい。

『父よ。御名があがめられますよう。御国が来ますように。私たちの日ごとの糧を毎日お与えください。私たちの罪をお赦してください。私たちも私たちに負いめのある者をみな赦しました。私たちを試みに会わせないでください。』



イエス・キリストの公生涯は宣教の生涯でした。それは同じく祈りの生涯でした。福音書のあちこちに祈られるイエスの姿をみかけます。ガリラヤの湖に近くところで早朝の祈りをしておられます。「さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。」(マルコ 1:15)。

この早朝の祈りの箇所は、わたしたちの心を朝の祈りに導く誠に強力な動機を与えることばです。私たちの朝の祈りが弱くなったら、この聖句を暗誦して口ずさみながら自らを励ますとよいでしょう。しばしば、わたしもそうして祈りを続けて来ました。

祈りは呼吸のように絶えず祈るものです。しかし、朝は格別に深呼吸をするように祈るのです。そして、周囲から隠れた密室に入って祈ることが祈りの基本です。「あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋にはいりなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます」(マタイ 6:6)。ジョン・ウェスレーの母スザンナは祈る場所がなく、エブロンを頭にかぶって密室のかわりにしたと聞いていますが、それが本当なら誠に実践的な密室の理解であるといえます。そして個人的な密かな祈りが、神を捉える祈りの基本の姿であります。

あるとき主は、「主の祈り」を教えられました。ルカはマタイとは別に、主が祈っておられた後に、弟子の求めにしたがって「主の祈り」を教えられたと記しています。「さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子のひとりが、イエスに頼みました。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」(ルカ 11:1)

イエスの弟子はヨハネを引き合いに出しながら「祈りを学ぼう」、「教わろう」としたのでした。祈りは「教わる必要」がありますが、教わって直ぐに分かる世界ではないことも確かです。イエス・キリストの祈りは神の御子の父との会話で、いわば親子の関係、他人の入りこむ余地などなかったのです。これは主の祈禱が、神秘に満ちべールで覆われていて分からないということではありません。

祈りの世界は奥が深く、神の世界の気高さの中に、自らを置いて、そこから「祈り」を少しずつ体得していくという敬虔なものであると思います。ことば以前のことば、感覚以前の神の前の沈黙の中から祈りが生じてくるからでしょう。弟子は見よう見真似でこれを体得するしかありません。OBIの卒業生であっても、祈りには卒業がありませんので、今日も祈りを学び、互いに祈り合って主と教会に仕えてまいりましょう。

第11回 OBI 同窓会 総会

2006年4月24日、OBI 5階教室で、同窓生20名の出席の下に、増田学院長、福井教務主任をお招きして、午前11時から午後2時まで同窓会総会は開かれた。総会司会是有田美栄子姉が執られた。一同、聖歌528番「いまだ見ぬ地」を讃美し、開会の熱い祈りが窪田姉により捧げられた。飯島会長と増田学院長から開会の挨拶が、福井先生からOBIの現況報告（新入学生19名：聖書科本科4名、聖書科専修科2名、聖書科聴講6名、教会音楽科5名、一般音楽科2名、研究科：リサーチコース16名）がなされた。続いて、議案審議がはかられた。

- 1.会計の三浦兄から2005年度の会計決算報告が、
- 2.森本姉から会計監査報告が夫々なされ、全会員一致了承された。（右表）
- 3.また、会計三浦兄から2006年度予算案が提示され、了承された。（右表）
- 4.有田姉から、2005年度OBIの歩みが概略報告された。
- 5.今年度役員の改選が審議され、会長に三浦秀弥兄、総務に芳賀功兄が夫々改選された。飯島会長、有田総務の多年の御労に感謝。会計は三浦兄が兼務。後日、戸川惺生兄が会計役員を了承。会計監査：森本酸姉、アドバイザー：杉山礼子姉、浪井弘子姉は留任。引続き、愛餐会と交わりが浪井姉の司会の下、行われた。出席者全員の近況報告やお証しがなされ、楽しい時を過ごした。終わりに、佐野謙次兄から、研究科リサーチ・コーチと後援会の報告があった。最後に、三浦喜代子姉の祈りで総会は閉じられた。

2005年度 OBI同窓会の歩み（概略）

- 4/25 第10回 同窓会総会実施。
- 4/21 飯島会長、理事会出席。
- 6/16 飯島会長、理事会出席。
- 6/18 第2回 お茶の水聖書学院募金コンサート植木朋子独唱会に協力。
- 7/1 ニュースレター19号発行。
- 7/11～13 サマースクーリングに協力。
- 7/12 鹿島の森ホテルで同窓会開催。
- 9/15 飯島会長、理事会に出席。
- 10/20 OBIへ広告費用10万円献金。
- 11/21 OBI創立15周年記念の集いー感謝と展望。
- 12/10 OBI協力金30万円献金。
- 12/24 ニュースレター20号発行。
- 2006.2/16 飯島会長、理事会出席。
- 3/18 OBI13回卒業式の受付、謝恩会に協力。
- 4/10 OBI入学式、始業式に協力。三浦喜代子姉祝辞。以上。

新会員紹介

音楽科総合コースの学びを修了して 平田 仁美（13期生）

三年前、学びの必要に迫られて、音楽科で学び始めてから、あっという間の三年でした。「せっかくだから総合コースで」と欲張って学び始め、「オルガン」と「声楽」と「講義」と、試験の近

2005年度 OBI 同窓会 会計報告

(2005.4. 1～2006. 3. 31)

単位:円

項 目	予 算	決 算	差 額
収 入			
前年度繰越金	83,594	83,594	0
維持献金	150,000	168,000	18,000
感謝献金	400,000	286,000	-114,000
同窓会活動費	0	0	0
雑収入	1	1	0
収入合計	633,595	537,595	-96,000
支 出			
事務費	20,000	6,509	-13,491
通信費	30,000	61,160	31,160
同窓会活動費	20,000	100,000	80,000
OBI協力金	450,000	300,000	-150,000
予備費	113,595	27,720	-85,875
支出合計	633,595	495,389	-138,206
次期繰越金		42,206	

献金者

献金者敬称略

脇坂勇	依田和子	清瀬行道	高橋理恵子	原 正子	三友庸子
三浦喜代子	窪田淳子	森本 健	杉山礼子	繪嶋 彰	松岡常子
三浦秀弥	浪井弘子	森 登	黒澤すぎの	糸満ミユキ	増尾善文
増尾邦子	平松庸一	北村久夫	小林喜久男	西川和子	有田貞一
滝田幸恵	平澤素香子	米田由起子	窪井節子	牧野三恵	黒澤すぎの
中村良子	中川和代	江藤博久	飯田みか	東 利雄	小林直子
三浦秀弥	染谷多真慧	脇坂 勇	永井みよ子	関口悦子	依田和子
原 正子	清瀬行道	安藤良一	能勢寿郎	国松裕子	瀧瀬 貴
繪嶋 彰	千田哲子	渡辺英子	国東恵子	平松庸一	福井ちよ
松岡常子	三友庸子	戸川偕生	田中恵子	内田光子	飯島多稼夫
酒井美音子	芳賀 功	田中恵子	佐野謙次	尾原光彦	三浦秀弥
内田光子	脇坂 勇	永田 裕	関口悦子	滝田幸恵	永井みよ子
戸川偕生	福井ちよ	堀口容子	猪狩友行		

(献金者が複数回提示される場合があります。)

以上献金者56名、78口。

会計監査報告

上記の結果、会計監査を行いました。記載内容は間違いなく、
正しく示していることを認めます。

2006年4月20日

会計監査

森 本 複



2006.3.18 卒業謝恩会で司会の平田仁美姉



2006年度 OBI同窓会 会計予算案

(2006.4.1～2007.3.31) 単位:円

収 支 項 目	前年度予算	前年度実績	今年度予算
収 入			
前年度繰越金	83,594	83,594	42,206
維持献金	150,000	168,000	180,000
感謝献金	400,000	286,000	300,000
同窓会活動	0	0	0
雑収入	1	1	1
収入合計	633,596	537,595	522,207
支 出			
事務費	20,000	6,509	10,000
通信費	30,000	61,160	60,000
同窓会活動費	20,000	100,000	20,000
OBI協力金	450,000	300,000	400,000
予備費	113,595	27,720	32,207
支出合計	633,595	495,389	522,207
繰越金		42,206	

くなると、大変な時もありましたが、本当に充実した学びをさせていただきました。時に、十分な練習ができていなかったり、不十分なレポートを提出してしまったり、とあまり良い生徒ではありませんでした。神様（と先生方）の憐れみによって、今春、卒業をゆるされました。

しかし、私の中では、自分自身にまだ、「もう卒業だよ」と言ってあげることができないのです。三年間の学びを終えて、やっとスタート地点に立ったような気持ちでいます。ということで、継続して実技を中心に学びを続けていくことに決めました。実技のレッスンが学びの中心となりますが、教会の賛美に係わるものとして、賛美すべき御方への理解が深められていくものでありたい、と願っています。

卒業の日を迎えて

日名 富子（13期生）

OBIで聴講をはじめてから三年半になります。その数ヶ月前に牧師をしていた夫が59歳で病死しました。私は住まいと教会を変わり、生活も一変しました。これからの自分自身の歩みについて、思い悩みましたが、許されるものなら、しばらく留まり、じっくりと聖書を学びたいという思いが強くなりました。

年齢的なこともあり、入学することに不安がありましたが、「あかし文章教室」に魅かれ、導かれるままに、最初の一步を踏み出しました。その後、本科に編入、基本科目には苦手な科目もあったのですが、ふたを開けてみると、いつの間にか楽しみの授業になっていました。これは、経験豊かな先生方の授業の魅力と、お人柄からしみ出る含蓄のあるおことばの賜物です。貴重な90分がもったいなくて、授業は殆ど休みませんでした。

また、教派や様々な立場を越えて、信仰の友として共に学ぶ教室の中には、厚い層（年齢だけではない！）が生み出す、極上の”刺激剤”が溢れていました。人生の転機に与えられたOBIでの学びを通して、霊肉ともに元気を戴きました。学ぶことが目的で終わるのではなく、学んだことがこれからの私の信仰生活を、豊かにしてくれることを期待しています。



OBI同窓会創設に労された能勢寿郎兄を追想して

追悼の詞「神様。あなたは私と共におられます。」

能勢寿郎兄の召天を偲ぶ

OBI学院長 増田 誉雄

「内の人は、イエス様を信じて本当に変わりました。」「私は今が、最高に幸せなんです。私が独り占めにすることができるんですから・・・。」会社人間であった能勢兄を振り返って、生前、麻江夫人がよく言っていたことを思い出します。そして、二十数年間リュウマチを患ったご夫人をよく介護して、病院で、「お母さんの面倒をよくみて、えらいですね。」と言われましたと、病気で年よりもふけて見える夫人について、茶目っ気たっぷりに兄は話していました。

兄は、OBI第二回卒業生ですが、卒論は、「出エジプト記」の解説を書き、さらに自費出版して友人たちに贈呈しました。その校正を夫人がしたのですが、校正がすんだら自殺をしようと思っていたところ、十戒の「殺してはならない。」は自分も自分のいのちを奪ってはいけないことなのだと気づかれて、思いとどまったのでした。

以後、車椅子を押しての兄の愛情豊かな信仰生活はクリスチャン夫婦の鑑と尊敬され、慕われたのでした。舌癌で召天された夫人を覚え、「神様。あなたは私と共におられます。」との最後のことばを銘文として記して、讃美に用いられるようにと、兄は教会にオルガンを寄贈されました。それはまさに夫婦共に復活信仰に生きることの説得力のある証しとして、毎聖日礼拝讃美に用いられ、神に栄光が帰されています。

能勢兄追悼のことば・机を並べた仲間

三浦 喜代子

1991年4月、開講を待ってOBIに飛び込んだ私は、最初の授業の時、思いきって、最前列中央に座しました。本田弘慈先生の魅力の故です。と、お隣が能勢兄だったのです。以来、なんと一度も違わず三年間机を並べました。これは強烈な思い出です。

兄は苛烈な戦争体験を持っておられ、ジャングルの中をさまよっている内に米軍に見つけられて捕虜収容所に収容され、間もなく解放されて帰国できたそうです。収容所内でそれまでの栄養失調が改善され、太って帰ってきたと、笑いながら話されました。兄はいつも悲劇を楽劇に変えるユーモアとウイットと、熱い信仰を持っておられました。

卒業式には、30年も介護されている車椅子の奥様と列席なさいました。三年前に奥様の召天を見届け、書道家であった奥様の遺作展もなさり、それから、奥様を追って行かれたのでした。前夜式に参列できてよかったと感謝しています。

能勢寿郎兄の思い出

杉山 礼子

能勢兄との出会いはOBI第一期生として、受講を共にした時でした。博学な中にも謙遜で穏やかなお人柄に接し、心をなごませて戴きました。理想的な御夫婦愛こそ、能勢兄の想い出の最も印象深い点です。

又、お琴の演奏もされると聞いて、びっくりしたことでした。一度、聞きたかったです。OBIで能勢兄のようにすばらしい先輩と共に学ぶことが出来、心より感謝しています。いつの日か、神様のみもとでOBIの同窓会がもてることに楽しみにしています。その時は、能勢兄のお琴の演奏で賛美したいですね。

能勢兄のおもいで

松岡 常子

能勢兄とは礼拝で数回ご一緒いたし、祝会時の琴演奏を拝聴させて戴いた短かい交わりでした。

しかし、清楚で敬虔な人柄に多彩な賜物を秘めておられたことが偲ばれます。恰も十二部族の胸当てにちりばめられた宝石の輝き、大祭司の装束の色鮮やかな麗しさがお似合いの兄でした。

又、機知に富み、ユーモア滑脱溢れる会話を楽しみたく、残念ですが、日が込むほどに閃く一時がありました。木漏れ日の喫茶店で同窓生が教会のヴィジョン、夢を熱く語り合ったそのところで主の恵み、神の愛、聖霊の交わりが私達とともにあることを実感した一時でした。

今後は、能勢兄のスキルな研究の書、「出エジプト記」を通して兄と交わり、啓示の言によって主の十字架と復活が求める信条を孤立させず実践者として興味津々の生涯を。

疲れを覚えた時、「六段の調」の優雅な旋律に能勢兄を偲び癒されて進みます。御国で憩われる兄弟と見える日まで、愛なる神に養われつつ聖なる旅路を歩んで行きたくなります。



能勢さんの思い出

佐野 謙次

わたしが能勢さんにお目にかかりましたのは、OBIを卒業して初めて同窓会に出席致しました時です。三浦喜代子さんが会長、国東さんが会計、能勢さんが書記でした。その場で、わたしに書記を交代するように命じられ、否応なく引き受けることとなりました。同窓会のサンプルはよく出来ていて、そのまま引き継ぐことが出来ました。そして、その後、折に触れて、御指導を戴きました。(1997年4月)。

次の思い出は著書を送って戴いたことです。ある日、突然、「出エジプト記」の著書を戴きました。そして続いて、5冊の著書を戴きました。

1992年11月1日発行「出エジプト記」、1994年6月20日発行「聖霊の研究」、1995年6月20日「紀元初期のキリスト教批判と迫害」1998年6月20日「イスラエル国の胎動」、1999年11月1日「落語人生」

はじめの4冊は、何れも力作でしたが、最後の落語人生は能勢さんの人生の履歴書ともいって人柄が現れるものであり、特に、ご夫妻の写真がすばらしく感じました。

最後の思い出は、昨年の6月26日、有田さんの古淵伝道所で礼拝の午後、松岡さんを交えて5人で、ミニOBI同窓会を行ったことでした。能勢さんは終始穏やかに、種々のOBIでの思い出を語ってくださいました。主が備えてくださった一時でした。長い地上の生涯を去り、天に召される日の近いことも知らず、わたしたちは心ゆくばかり、楽しくその時を味わったものでした。やがて天にて会い見ることを偲んで、三つの思い出を書かせていただきました。

能勢寿郎兄の思い出

繪鳩 彰

能勢寿郎兄の御生涯は、愛と忍耐と誠実の生涯でありました。お茶の水聖書学院での学びの時、御病気の奥様を献身的に介護なさいました。病院へは車椅子の奥様に御一緒に付いていかれました。そのような家庭環境の多忙さの中にあって、よく勉学に励みました。病床の奥様の御協力により、兄弟は、自費で、聖書研究成果を一冊の御本にまとめられました。小生にもお贈り下さいました。能勢寿郎兄の熱意と努力には、本当に驚きました。書家であられる御病気の奥様に、夜中に、展覧会に出展するので、書道の道具の準備を頼まれたのですよ、そして、一気に書き上げてしまわれたとのこと。私は、そのお話を聞き、いつも、二人三脚で、何事も試練に耐えながら、目標に向かう兄弟から、多くのことを教えられました。お茶の水聖書学院での学びを通して知り合った良き友を突然失って、私も本当に淋しい思いであります。

(ガラテヤ書5:22～23)

能勢兄の思い出

有田美栄子

忘れもしない1989年12月25日。クリスマス礼拝で兄は経堂めぐみ教会、増田誉雄牧師より受洗された。私事で、恐縮ですが、私の母、小山とりもその時、一緒に受洗した一人でしたので、よく覚えています。共に、大正の激動の時代、戦争を経験した

ものとして、私の母と私たちと能勢御夫婦とは本当に親しくお交わりを戴きました。

古淵伝道所へは、時折、来訪され、琴を弾いたり、励ましを戴きました。また、茶道にも通じておられ、私たちの点前も喜んで下さいました。御夫婦の見事な召され方を見るに付け、クリスチャンとしての生き方も深く教えられました。

昨年、10月中旬、お見舞いに伺ったときには、11月21日のOBI 15周年を楽しみにしておられました。容体が急変され、召されて余りに急なことに驚き絶句しました。今や、天にて奥様麻江様と寛いでおられることでしょう。能勢さん、本当に有り難う、主に感謝です。



出エジプト記



能勢 壽郎 著

出エジプト記

イスラエル国の胎動



能勢 壽郎

イスラエル国の胎動 旧約聖書・ヨシヤ記

能勢 壽郎

聖霊の研究



能勢 壽郎

聖霊の研究

能勢 壽郎

紀元初期の キリスト教批判と迫害



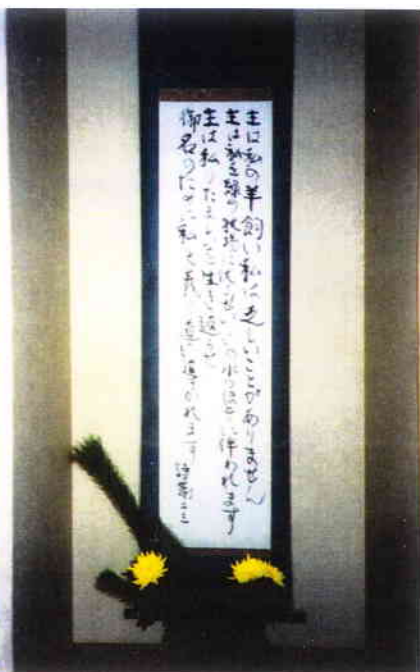
A P A T E R N O S T E R O



S A T U R
T R E P O
O P E R A
R O I G A
N O S T E R
O

能勢 壽郎

紀元初期 キリスト教批判と迫害



近況報告と祈りの課題（同窓会出席者）

有田 美榮子 五年ぶり西先生の「旧約聖書の思想と概説」を中・後篇より学びを始める。前々から学びたいと思っていたので、今春よりワクワクしながら学んでいます。また、チャレンジを受け、まさにOBIでの学びの大切さを知り、かつ励まされています。また、古淵伝道所のために、お祈り有り難うございます。引き続きお祈り下さいますようお願いいたします。

飯島 多稼夫 日本同盟キリスト教団の東京宣教区の役務者の役を終えたと思ったら、今度は教団信徒理事を依頼されて、祈りのうちに引き受けた。家族、妻、息子、娘夫婦の救いのためにお祈り下さい。

窪田 淳子 本年度も研究科で学ぶことが許されて嬉しく思っております。何が出来るか求めつつ個人伝道の奉仕へと、高齢者との交わりや訪問、手紙、家庭集会への協力、草加キングスガーデンでの月一回の礼拝の参加等を行っています。

戸川 惺性 4月30日教会総会にて牧師に推挙されれば、増田先生に按手をお願いする予定です。すべてにおいて主の御心がなりますようお願い下さい。(6月18日、増田学院長より腰越教会にて按手を受け、正式腰越教会の牧師に就任されました。おめでとうございます。)

浪井 弘子 洗礼を受けてからすぐ始めました家庭集会が23年になりました。求道中の方が救われますように。又、お花のハンキングマスターとしての働きを通して伝道へと繋げていければいいと思っております。是非、お祈りをよろしくお願いいたします。

牧野 三恵 2006年度中に拉致問題の全面解決を。横田早紀江姉の霊性、健康が守られますように。横田姉の救出活動を通して福音が伝えられますように。家族、友人、知人の救いのためにお祈り下さい。

松岡 常子 みことばにとらえられている日々です。主のご真実と愛の中で家族（娘婿）の救いを祈り、又教会、社会のために夫と共に祈り合い、幸いの時を送っています。

三浦 喜代子 ネットコースで「あかし文章講座」が開かれています。今年も文章活動を通して主を伝えていきたいと思えます。ブログ「希望の風」を設けて、毎日記事を書き続けています。パソコン使える方々、のぞいてください。

三浦 秀弥 多望な日々、多忙な時を過ごしています。教会、OBIの学び、仕事（週3～4日）そして家庭と毎日マラソンやってるみたい。何時終わるのか？その上、OBI同窓会の会長職を加えられて。更なる健康が保たれますように、お祈りいただければ、幸いです。

森本 馥 本年もリサーチコースが楽しみです。素晴らしい学びです。感謝です。教会では、婦人宣教の思いを抱いた有志の方々によって始められた月1回の集い「シャロンの花の集い」が14年間続けられ155回を迎えました。教会に来ていただく始めのステップとして用いられ救われる方が起されていること、感謝です。どんな時にも主が共にいて下さり、導いて下さいます。OBIの聖地旅行で眺めた美しいイスラエルの野、シャロンの平原の花々を思い浮かべながら御奉仕できる恵みに感謝しています。

会員近況報告と祈り（同窓会総会参加への返信より）

会田 清美 私は3月に通信制大学での学びを終え、今後の歩みを主に祈り求めています。お祈りください。

東 利雄 OBIの益々のご発展をお祈り申し上げます。遠隔地（兵庫県）のため欠席させていただきます。

安藤 良一 法科大学院で学生の指導に追われています。

阿江 美知代 同窓会の輪に加えてくださることを感謝です。今後とも、よろしくお願いいたします。

糸満 ミユキ 土浦市に転居しました。弟家族と同居します。終の棲家となるでしょう。これからが信仰が試される時だと覚悟しています。主を愛し、家族を愛する事が出来ますように。祈りに徹したい。お祈りください。

上田 留美子 今年は、娘の結婚準備の為に忙しくなりそうです。

内田 光子 同窓会に出席できませんが、皆さまの祝福をお祈り申し上げます。

内山 未知 元気で歩んでいます。人として自立、誰かに左右されることのない信仰を整えていただきたいと主に祈っています。お祈りください。

江藤 博久 聖宣神学院の4年生として仕上にかかっています。来年4月より、いよいよ牧会に入ります。あまりにも小さき自分、主のあわれみを。

尾形 真理子 奏楽の奉仕をさせて頂いています。

小川 純 OBIで学ばれた方々が、益々主に用いられますように、お祈りいたします。

尾原 光彦 今年は妻と二人で音楽ミニストリーを始めようと祈りつつ願っています。お祈りください。

加来 国生 ハレルヤ！筑紫野二日市キリスト教会に着任、丸3年が過ぎました。この5、6年内に開設した二つの伝道所も神様の豊かな祝福と憐れみのうちに順調に教勢が伸びています。感謝、感謝！！

笠木 ありさ 昨年の夏から、川越のケアハウス主の園でヘルパーをしています。OBIの事は、今でもよく思い出します。これからも、OBIの働きが神様によって大いに祝福され、ひとりでも多くの方が学べるようにお祈りしています。

清瀬 行道 日本、台湾、米国でテントメーカーしています。よろしく、お伝えください。

木下 順子 函館に遣わされて、2年目になります。冬の間も守られて感謝です。まだまだ、礼拝のメッセージや祈祷会等で手一杯の状況です。お祈りよろしく、お願いいたします。

木元 从 主のご祝福をお祈り申し上げます。老人介護の日々が続いて居ります。

国松 裕子 月に2回オルガンのレッスンを受け、ようやくオルガンというものが分かってきました。今年度も続けていきたいです。

黒沢 すぎの 78歳になるとこんなにも体が不自由になり意欲も失って教会の行事にやっと参加して痛む脚と戦いつつ、家庭集会月4ヶ所、聖書研究祈祷会、車で運んで頂いてる参加状態です。

倉沢 薫代 本田先生から戴いた額の御言葉”霊に燃えて主に使え”そうさせて頂きたいと祈るものです。

窪井 節子 院外処方箋の取扱いの薬剤師として勤務しております。残念ながら欠席させていただきます。

小林 喜久男 新しく7名の兄弟を迎えられての同窓会総会が豊かに祝されますようお祈り申し上げます。

佐藤 敬 懐かしい皆さまにお会いできなくて残念です。カウンセリングの仕事を続けています。クリスチャン結婚紹介室室長の仕事はクリスチャンホームの建設、信仰の継承という主のお働きの一端を担わせて戴くという恵みにあずかっています。とても嬉しく感謝に思っています。教会では執事4年目の奉仕です。

須田 松子 4月から長女は小学校入学し、次女は年中組に進級しました。役員など忙しく、楽しく過ごさせて頂いております。聖書学院の御働きをお祈りしています。

菅井 正道 音楽活動とギデオン会員としての奉仕活動に忙しくしております。5月の関東地区大会の準備に主の導きとお支えを感じつつホスト役として奉仕させて頂いております。

杉山 礼子 4/24～5/8までニュージーランドの息子宅へ行ってきます。

鈴木 恵美 2006.4月、伝道師の家族として、牧会の助け手として召し出され遣わされることになりました。

関 節子 住所変更しました。

関口 悦子 昨年度、新しい学校に転勤し、相変わらず教員として勤めています。イザヤ書41：10「恐れるな、わたしはあなたとともにいる。」この御言葉が常に共にあり、生かされています。

千田 哲子 宣教活動として、ゴスペル・サークル集会を引き続きしております。2月にサークルに入っておりました長姉が洗礼を受けました。月曜日はサークルが休めません。増田先生、始め諸先生方を懐かしく思い出し、更なるOBIの前進をお祈りいたします。

高橋 美恵子 現在、韓国ソウルに住んでいます。ソウルでは、オンヌリ教会の日本語礼拝部で礼拝を守っています。

田中 恵子 当日、変更できない予定が入っておりますので、欠席させていただきます。OBIを通して、主の働きが更に豊かに拡げていきますようにお祈りいたします。

中村 良子 中川キリスト福音教会に主人と共に遣わされて6年目を迎えます。OBIで学ばれる方が多数与えられますようにお祈りいたします。先生方の健康の為にもお祈りいたします。

中川 和代 当日は用事があるため出席できません。4月からOBI研究科の学びを申し込みました。皆様と学べることを楽しみにしています。

内藤 めぐみ 仕事のため出席できませんが、主にある良き交わりの時となりますようお祈りいたします。

西川 和子 今年はいよいよ東京神学大学での最終学年（修士2年）となり、修士論文にチャレンジしています。お祈りください。

原 正子 長年の祈りの課題であった会堂の建て替えが始まりました。秋には完成です。お祈りください。

畑山 光代 教会の御用のため、欠席させていただきます。

平野 一郎 住所変更いたしました。声楽の勉強を続けています。

平松 庸一 遠方の地に引っ越した為、残念ですが欠席させていただきます。OBI同窓会がいよいよ発展しますようにお祈り申し上げます。

平澤 素香子 今年70歳になり、それ相当の働きを教会や地域でさせていただき恵の中に過ごしております。

平田 仁美 昨年度、音楽科総合コースを卒業しました。続けて、継続コースで学んでいます。

増田 慶子 聖歌隊の指導や指揮、祈り会のピアノの奉仕をさせて頂いております。

村松 俊郎 研究科で学んでいます。

三友 庸子 嫁いだ娘にこの度、男児が与えられまして、病院から退院後、当方で静養することになりましたので、残念ながら出席できません。

森井 あずさ 不登校になっている自閉症の長男と離れて暮らしている次男のために続いてお祈りいただけると感謝です。

門馬 正衛 OBIが主の働きにますます、用いられますようにお祈りいたします。

吉田 喜代美 住所が変わりました。老人ホームでナースとして働いています。

吉田 和子 仕事も神学校も、後1年となりました。この最後の1年を充実させたいと願っています。

依田 和子 新しい聖書学院のご出発、心からお祝い申し上げます。伝道師として感謝のなかに、日々御奉仕させていただいております。

米田 由紀子 教会では、新会堂の建設工事に入ります。秋には、献堂式の予定です。

脇坂 勇 勤めながら、教会の奉仕、ギリシャ語の学びをしております。

教会便り 浦和福音自由教会 献堂式に参加して

新会堂は、北浦和駅から徒歩で4.5分、北浦和公園、近代美術館に隣接した閑静な所。埼玉大通りに面し、十字架を高く掲げたキュービックな会堂。螺旋階段を三階に昇る。ロビーを通過して、礼拝堂に入る。前面は、天地一杯に光を採入れ、中央に半透明な十字架が位置している。その下に、講壇と聖餐式食卓が安置されている。会衆席は、十字架を中心として、円弧を描いている。ウッディな色彩と感触は気持ちを落ち着かせてくれる。礼拝堂は、特にそうであるが、「直」と「曲」の流れ、その調和に配慮されている。主の大きな御衣に包まれている感じ。

2006年5月28日、午後3時より献堂式が執り行われた。浦和福音自由教会草創の御労を取られたカルビン・ハンソン師を迎えて、「この日は主がつくられた」と題して説教がなされた。戦後1950年、焼跡色濃く残る中から、浦和の地に福音宣教されていった状況が物語られた。故古山師との交わり、英語聖書の学び、公的施設を用いた伝道集会等、魂の渇きの時代を鮮明に語られた。半世紀以前の出来事が夢のよう。今、この時、恵みは下った。

来賓挨拶では、第2代宣教師デイビット・ヘッセルグレーブ師からもリング箱の上から路傍伝道が熱く語られた。因に、総工費は13億円と報告された。残債6億円は会員の皆様の双肩に懸かっている。試練の主は与え、更なる恵みを約束されているのだと、私は思った。

牧師 牧師 坂野慧吉 副牧師 高橋正則 伝道師 森裕子

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤10-7-13 TEL048-822-1493

レポーター：三浦秀弥(6期生)、田中恵子(9期生)

IEC (国際電気規格) の改正日本提案代表や二つの子会社の社長を辞めて、本社に戻ることにした。そこで、もう一花咲かせようと息込んで出社してみると、「ゆっくり体を休めてくれ」との言葉であった。体のいい閑職行きである。本社を数年離れている間に、重要ポストは後輩たちが就き、すでに十分活躍していた。給与と取締役としての役職は、保証されていて、どんなことをしてもよく、仕事の中味に責任は問われなかった。いくつかある子会社や協力工場がISO-9000の認定をとれるように、品質管理体制の指導をした。60歳の定年に、あと二三年の時のことであった。

定年直前に、三つの働き口が備えられていた。ISO-9000の品質審査員が、芝浦工業大学の派遣コンサルタントが、上海郊外の常熟という所のセンサー会社の招聘技術・経営指導者かの道であった。祈ったところ、将来についての目論見は私のものと主の意図とは異なっていた。(他の者は新しい就職の道に進んでいくが、)「あなたにはなんの係わりがあるのか。あなたは、わたしに従ってきなさい。(ヨハネ21:22)」であった。

そこで私は、勤められるままにお茶の水聖書学院に入学した。一日、24時間何の心配もなく、全部を聖書関連の学びに使えるようになったので、また、上記の主の御言葉に従うために、可能な限り生活のすべてを学習に当てることにした。入学前から進めている一つのテーマがあり、これに関連させて学ぶことにした。息子が交通事故で亡くなったことで、死と神の国のことを知りたかったのである。その結果、主の守りと導きによって、三年間で29科目90単位を取得させていただいた。学びを進めるには、指定テキスト以外に、先生から推薦された図書に自分で選択したものを加え、各教科とも系統の違った参考書を五、六冊を併読して授業を受けた。この学びと並行して、研究課題である「死と神の国」の方も進め、その内容に学院で学んだことを加えたり修正していった。これを卒業当日に卒業論文として、547頁の本にして、発売を「いのちのことば社」経由で出版することができた。

これからの お知らせ

- OBIサマー・スクーリング** 7月10日～12日 (二泊三日)
講師：野田 秀 先生 主題：「教会生活の深まり」
会場：恵ジャレー軽井沢 費用：26,000円 (1泊参加者は13,000円)
- OBI夏季同窓会** 7月11日午後。会場：軽井沢、鹿島の森ホテル
- OBIスクーリング 第2回** 夏季声楽・オルガン研修会と発表コンサート 植木朋子先生、内藤真奈先生。研修会：7月11日～12日
発表コンサート：7月12日 pm1:30より。場所は日本基督教団軽井沢会分教会 (軽井沢町追分51 TEL026463312)
- OBI夏季講座** テーマ：「社会における信徒のあり方」
講師：佐野謙次兄 中島総一郎兄 期日：7/17, 7/24, 7/31, 8/7.
時間：10時30分～15時15分 (昼食45分休憩) OCC 517号室
費用：1日当り2000円、全日受講生には2単位が与えられます。
- OBI公開講座リサーチコース** 後期は藤巻充先生を迎えて、ジョン・ウェスレーを、更に深く学ぼう！
- 音楽コース発表コンサート** 10月半ばの予定。



祝卒業 中島兄、日名姉 2006.2.14 お茶の水聖書学院

卒業後は研究科へ進み、併せて、願ってもないことであるが、学院で講座を持つことになった。実生活に基づいた信仰者としての生き方に関連した「聖書と人生」についての内容である。既刊の五冊も加えてテキストにする予定である。さらに過去の経験を活かしてとのことで、OBIの経営・運営面での評議員を委嘱された。あのときの主イエス・キリストの御命令と三年間の学院での学びが、今後の歩みのための準備であったとは、私としては露知らず、全くの主のお導きであった。今日あるは主の恵みによることと、これからのことは、感謝しつつも身が引き締まる思いである。

教会での講壇メッセージ、派遣講師、諸集会での講演・証詞など従来どおりの御奉仕も続けていくことになるが、主が示されるままに忠実に一歩一歩御足のあとに着き従って行きたいと祈っている。

編集後記

世の中は、目眩く展開で、暗さを増すのみ。世は唯今、真暗闇です。しかし、私たちに、主がおられる。私たちは、御言葉の光に照らされている。希望に生きるべく恵を深く、主に感謝します。

さて、多忙な日々、やっと、発行まで辿り着いた。OBI同窓会の年次総会も無事終えてから、OBI関連のポスターの制作を済ませ、本誌の編集スタート。原稿依頼諸氏には、遅れましてお詫びの一言です。

今回は、昨年、十一月、天に召された能勢寿郎兄の追悼特集を組んでみました。本誌19号で、学院長が同窓会の草創期について記されていました。そこで、初めて能勢兄に関心が向きました。会計係を担当していて、私は、お名前は存じていましたが、お名前だけでした。同窓会の礎を築いてくださって、今、私たちがあるを思うとき、能勢兄のお人柄を知りたいと、先輩の諸氏、学院長に御執筆を願った次第です。誌面の都合により、もっとお書き願えれば、でしたが、簡潔な筆使いに能勢兄のお人柄を彷彿とさせられています。

巻頭言の世良田先生からは、「祈り」の基本を深く教わり、感謝します。新会員の方々からもOBIの学びとこれからの展望、決意が力強く語られました。皆さんの御芳感謝いたします。主からの恵の更なるを願い、祈ります。有り難うございました。栄光、主にあれ。OBIのOBの皆様の健康が保たれますように、特に祈ります。

梅雨のあとさき、田園散策 二句 編集者
麦秋賛歌 昇りつめ 天裂くほどの 雲雀かな
見沼田園 桜桃のころ 雲伸しかかる しる田かな